

り、附會し誤りつたへてより、謠曲にもつくり、小町物語などいふ、後世の書なども出來、七小町などいふ俗説もおこりて、皆人さる事のやうに思ふに至れるなり、顯照古今序注にも、玉造小町としるま

小野氏系圖を見るに、敏達天皇の御子、春日若子、其子大徳冠妹子王に、はじめて小野朝臣の姓をたまふ、それより毛人、毛野、永見、峯守、篁、良實つゞきて、その女子二人ありて、一方に小町と小書せり、是まことの傳にや、今一人の女子は、古今集後撰集に、小町が姉の歌あり、此人なるべし、但後撰集には、小町が多まこの歌見えたれども、系圖に載せず、うまごあれば、小野も子有し事しらる、さるを俗に小町は陰門ホトなかりきなどいふは、玉造小町が、人々につれなくて過しよりいへる附會なるべし、略○下

〔今昔物語 三十一〕竹取翁見付女兒養語第卅三

今昔、□天皇ノ御代ニ一人ノ翁有ケリ、竹ヲ取テ籠ヲ造テ、要スル人ニ與ヘテ、其ノ功ヲ取テ世ヲ渡ケルニ、翁籠ヲ造ラムガ爲ニ、篁ニ行キ竹ヲ切ケルニ、篁ノ中ニ一ノ光リ、其ノ竹ノ節ノ中ニ三寸許ナル人有リ、翁此レヲ見テ思ハク、我レ年來竹取ツルニ、今此ル物ヲ見付タル事ヲ喜テ、片手ニハ其ノ小人ヲ取リ、今片手ニ竹ヲ荷テ家ニ返テ、妻ノ媪ニ、篁ノ中ニシテ此ル女兒ヲコソ見付タレト云ケレバ、媪モ喜テ初ハ籠ニ入レテ養ケルニ、三月許養ケルニ、例ノ人ニ成ヌ、其ノ兒漸ク長大ニナルマ、ニ世ニ並無ク端正ニシテ、此ノ世ノ人トモ不思エザリケレバ、翁媪彌ヨ此レヲ悲ビ愛シテ傳ケル間ニ、此ノ事世ニ聞エ高ク成テケリ、而ル間翁亦竹ヲ取ラムガ爲ニ、篁ニ行ヌ、竹ヲ取ルニ、其ノ度ハ竹ノ中ニ金ヲ見付タリ、翁此レヲ取テ家ニ返ヌ、然レバ翁忽ニ豊ニ成ヌ、居所ニ宮殿樓閣ヲ造テ、其レニ住ミ、種々ノ財庫倉ニ充テリ、眷屬衆多ニ成ヌ、亦此ノ兒ヲ儲テヨリ後ハ、事ニ觸レテ思フ様也、然レバ彌ヨ愛テ傳ク事無限シ、而ル間其ノ時ノ諸ノ上達部殿上人、